

分科会開催報告書

報告日 令和 4年 1月 29日(土)	報告者 佐藤和広
分科会名 古文書を読む会	開催テーマ 第二学習 島原の乱⑬
開催日時 令和 4年 1月 27日(木) 午前 10:00 時 ~ 12:00 時	開催場所 金沢公会堂第二会議室
参加人数 古文書を読む会会員 男 8名 女 3名 合計 11名 欠席者 3名	
<p>幕府方上使松平信綱からの矢文に対し城方天草四郎からも矢文の返状を射返してきた。 内容・今度たて籠もったのは幕府や方々への恨みの為ではない。長門守殿の重税や過酷な処置で生きる望みを無くし、宗旨に従い早く今生の暇(いとま)をして極楽へいきたいためである。</p> <p>細川家文書の中にも類似した一揆勢の矢文がある。 内容・今度籠城に及んだのは国家を望んだのでも、国主に背くものでもない。 キリシタンの宗旨は他の宗派に替えられるものではないのにキリスト教禁止など非人間的な扱いを受け(長崎の「26聖人磔」)、不思議の天慮を受け燃え立あがりました。 さてオランダ船が我々を砲撃しましたが、十万人以上幕府方武士が原城を包囲しているのに、他国まで援助を頼むとは日本の恥はどうなるのか。</p> <p>原城落城の折に、熊本藩主が「四郎法度書」なる一揆側の掟書を発見した。 内容・籠城して戦うことが「後生の救済」となることを説き、我儘な籠城者もいるが今籠城している者達は皆「後世までの友達」になるはずであるから指導するように。 一方薪取りや水汲みにかこつけての逃亡者を取り締まるように厳命していることは、落伍者があとを絶たなかったことをうかがわせる。 臨戦態勢の中、遠からず皆戦死するはずだとの覚悟を感じさせ緊迫感に満ちている。</p>	
次回予定 令和4年2月9日(水) 10:00~12:00 場 所: 金沢公会堂第二会議室 テーマ: 第一学習 参勤交代(松平春嶽)⑤	